

3. 主要事業の概要

【事業規模(事業費)】

(単位:千円)

事業名	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度 予算	備考
① 花き卸売市場賃貸	649,020	587,776	562,321	488,975	
全事業合計に占める割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
全事業合計	649,020	587,776	562,321	488,975	
全事業合計に占める割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

【事業計画及び事業実績】

事業内容	事項	事業量		備考
		令和元年度事業量	令和2年度計画量	
施設の管理運営	大阪鶴見花き地方卸売市場	せり資格者数 945人 取扱高 23,949,167千円	せり資格者数 928人 取扱高 21,087,000千円	

4. 大阪府の財政的関与の状況

(単位:千円)

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度 予算	補助金、委託料等の内容
補助金	0	0	0	0	
委託料	0	0	0	0	
貸付金	0	0	0	0	
その他(分担金・負担金・出捐金等)	0	0	0	0	
合計	0	0	0	0	

府損失補償・債務保証契約に係る債務残高(期末)	0	0	0
府借入金残高(期末)	0	0	0

5. 財務状況

(単位:千円)

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度比増減	分析・評価
貸借対照表	資産合計	2,257,708	2,244,558	2,216,462	△ 28,096	<p>(現金預金) 現金預金の減少については、売上高の減少(25,455千円)に加え、借入金返済の増(33,350千円)及び前払費用の増(10,006千円)が主な要因である。</p> <p>(その他流動資産) その他流動資産の増加については、リース投資資産の増(21,579千円)が主な要因である。</p> <p>(有形固定資産) 有形固定資産の減少については、駐車場管制設備、空調設備、防火シャッターなど改修工事に伴う増(60,748千円)及び減価償却に伴う減(101,836千円)が主な要因である。</p> <p>(その他固定資産) その他固定資産の増加については、長期返済額の増(76,000千円)が主な要因である。</p> <p>(短期借入金) 短期借入金の減少については、1年以内返済予定借入金の減(87,250千円)によるものである。</p> <p>(未払金) 未払金の増加については、空調設備工事費用の未払いによる増(31,174千円)が主な要因である。</p> <p>(長期借入金) 長期借入金の増加については、借入の増(70,000千円)及び返済による減(21,579千円)が主な要因である。</p>
	流動資産	396,181	389,398	341,247	△ 48,151	
	現金預金	324,318	321,918	260,892	△ 61,026	
	未収金	5,019	10,302	1,217	△ 9,085	
	その他流動資産	66,844	57,177	79,138	21,961	
	固定資産	1,861,527	1,855,160	1,875,216	20,056	
	有形固定資産	1,843,357	1,838,485	1,792,672	△ 45,813	
	無形固定資産	655	655	655	0	
	その他固定資産	17,515	16,020	81,889	65,869	
	負債合計	270,675	248,460	242,387	△ 6,073	
	流動負債	99,839	142,420	89,144	△ 53,276	
	短期借入金	56,757	104,552	17,302	△ 87,250	
	未払金	26,408	29,055	58,983	29,928	
	その他流動負債	16,674	8,813	12,858	4,045	
	固定負債	170,835	106,040	153,243	47,203	
	長期借入金	71,151	6,199	53,157	46,958	
各種引当金	484	641	886	245		
その他固定負債	99,200	99,200	99,200	0		
資本合計	1,987,034	1,996,099	1,974,075	△ 22,024		
資本金	1,800,000	1,800,000	1,800,000	0		
剰余金	187,034	196,299	174,275	△ 22,024		
自己株式	0	△ 200	△ 200	0		

(単位:千円)

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度比増減	分析・評価
損益計算書	売上高	649,020	587,776	562,321	△ 25,455	(売上高) 売上高の減少については、花き業界の低迷、施設使用料の引下げ、6月から10月までの商品単価の下落に加え、新型コロナウイルスの影響による取扱高の減に伴う売上高賃料の減(26,139千円)が主な要因である。
	売上原価	485,199	476,983	481,849	4,866	
	販売費及び一般管理費	88,312	84,071	82,918	△ 1,153	
	営業利益(損失)	75,510	26,721	△ 2,446	△ 29,167	(売上原価) 売上原価の増加については、減価償却費の増(9,494千円)、租税公課の増(1,185千円)及び水道光熱費の減(3,029千円)が主な要因である。
	営業外収益	5,126	3,023	5,233	2,210	(特別損失) 特別損失の減少については、固定資産の除却損による減(7,727千円)が主な要因である。
	営業外費用	897	616	527	△ 89	
	経常利益(損失)	79,739	29,128	2,260	△ 26,868	(法人税等) 法人税等の増加については、繰延税金資産の減(15,010千円)が主な要因である。
	特別利益	0	0	0	0	(繰越利益剰余金) 繰越利益剰余金の減少については、当期純損失の減(22,023千円)が主な要因である。
	特別損失	14,227	13,512	7,777	△ 5,735	
	法人税等	23,373	6,351	16,506	10,155	
	当期利益(損失)	42,139	9,265	△ 22,023	△ 31,288	
繰越利益剰余金	107,034	96,299	74,275	△ 22,024		

※単位未満は四捨五入を原則としたため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

仕組債の保有状況	保有総額<平成31年3月31日時点>	保有総額(A)<令和2年3月31日時点>	時価評価額(B)<令和2年3月31日時点>	保有総額と時価評価額差(B)-(A)
	0	0	0	0

主な経常費用	平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度比増減	分析・評価
役員人件費	10,023	9,898	10,327	429	(減価償却費) 減価償却費の増加については、リース投資資産の増(21,579千円)が主な要因である。
職員人件費	48,905	44,021	44,345	324	
退職給付費用	97	157	246	89	
減価償却費	88,977	99,342	108,836	9,494	

主要経営指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度比増減	分析・評価
人件費比率	人件費/売上高	9.1%	9.2%	9.8%	0.6%	(流動比率) 流動比率の増加については、流動負債の短期借入金 の減(87,250千円)が主な要因である。
販売管理費比率	販売費及び一般管理費/売上高	13.6%	14.3%	14.7%	0.4%	
総資産当期利益率	当期利益/総資産	1.9%	0.4%	-1.0%	-1.4%	
総資産回転期間	総資産/(売上高/12) (月)	41.74	45.82	47.30	1.47	
売上高経常利益率	経常利益/売上高	12.3%	5.0%	0.4%	-4.6%	
流動比率	流動資産/流動負債	396.8%	273.4%	382.8%	109.4%	
借入金比率	借入金残高/総資産	5.7%	4.9%	3.2%	-1.8%	

6. R1年度 経営目標の達成状況

I. 最重点目標(成果測定指標)

戦略目標	成果測定指標	単位	H30実績	R1目標	R1実績 (※1)	ウェイト	得点(※2)	小計(※3)
① 収益力の向上	当期経常利益	千円	29,128	10,000	2,260	40	0	0/40 【0%】

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

③ 市場活性化の取組み	消費拡大のためのイベント、ワークショップ等の開催、支援	回	12	20	20	10	10	50/50 【100%】
	市場関係者が産地等と連携して行う展示会・商談会の開催等	回	(11)	15	15	5	5	
	新規買受人の獲得	人	(19)	15	18	15	15	
④ 施設改修	経営状況を勘案した施設改修	百万円	-	127	127	10	10	
⑤ CS調査	花き卸売市場に対する買受人の不満足度	%	17	16	14	10	10	

III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

② 環境に対する負荷の軽減	廃棄物の再資源化率 (再資源廃棄物(トン) ／廃棄物総量(トン))	%	(72)	73	73	10	10	10/10 【100%】
---------------	---	---	------	----	----	----	----	-----------------

※1 網掛けは目標達成項目。

※2 目標値が前年度実績以上の場合、当該年度の実績値が目標値に到達しないときでも、達成状況に応じて加点を行う。

※3 小計の【 】は得点率。

7. 法人による評価結果

法人の総合的評価結果	点数(合計)	役員業績評価
<p>法人の売上高に大きく影響する市場取扱高については、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、卒業式や各種イベント等の中止による需要の減少などの影響もあり、取扱数量は対前期比で2.2%の減少、取扱金額は対前期比で3.6%減少の239億49百万円となり、結果として、「当期経常利益」は226万円となったことから、最重点目標については目標が未達成となった。</p> <p>「消費拡大のためのイベント、ワークショップ等の開催、支援」については20回、「市場関係者が産地等と連携して行う展示会・商談会の開催等」については15回と、それぞれ目標を達成。また、「新規買受人の獲得」についても目標の1.2倍の18人となり、市場活性化の取組みを図ることができた。</p> <p>「経営状況を勘案した施設改修」については、市場構造劣化補修工事、市場東出入口舗装工事などを計画的に実施することで修繕費削減にも取り組み、資産を増加するとともに目標達成となった。</p> <p>「花き卸売市場に対する買受人の不満足度」については目標の0.875%減の14%で目標達成となった。</p> <p>「廃棄物の再資源化率」については大量の段ボール、トイレ等の廃棄物を効果的に処分することで、目標達成となった。</p> <p>令和2年における市場法改正を踏まえ、市場活性化のための多様なサービスを効果的に提供できる体制を構築するとともに、保有資金の状況も踏まえながら施設整備を行うことにより当市場の施設機能を向上し、より競争力のある市場に発展するよう努める。</p> <p>具体的には、WEBを利用しての在宅セリに取り組み、遠方の買受人や市場に来る時間を取りにくい買受人が取引に参加しやすい環境を整備し、取引拡大及び新規買受人の獲得につなげる。</p> <p>また、令和2年7月末より、セリ時間を夕刻～夜間に移行し、他市場のセリ時間とずらすことで、買受人の取引機会を増やし、取引拡大及び新規買受人の拡大をめざす。</p> <p>併せて、市場開設者である当社と、市場運営を担う卸売業者に加え、株主も交えた市場運営のあり方についての意見交換の場を設け、市場機能の向上、発展につなげる。</p> <p>また、イベントやワークショップの実施及び市場関係が産地等と連携して開催する展示会・商談会などの支援を強化し、消費喚起・拡大を図るとともに、引き続き、業務委託料や人件費等の更なる経費削減に努め、収益を確保する。</p>	60	B

8. 府の審査・評価の結果

審査の結果	経営状況、事業の実施状況その他の事項に関する府の評価結果及び指導・助言
<p>①卸売業者の厳しい経営状況が続く中、市場機能を活性化させるため、市場運営の担い手である卸売業者への長期的な視点での下支え策として、平成30年度7月から施設利用料を引下げたことによる施設利用料収入減少に加え、花き業界全体の低迷に追い打ちをかけるように新型コロナの影響で、例年大きな花き需要が見込まれる時期のイベント等の中止・自粛により、売上高が激減した。特に、3月に多く開催される卒業式や送別会等が行われなかったことによる花き需要の減少が大きく影響した。取扱数量は対前期比で2.2%の減少、取扱金額は対前期比で3.6%減少の239億49百万円となり、その結果、「経常利益」は約2百万円に止まり、目標に届かなかった。</p> <p>②環境に対する負荷の軽減については、分別等について場内事業者の協力も得ながら、再資源化に取り組んだ結果、目標を達成できた。</p> <p>③市場活性化の取組みについては、花き需要喚起を図るため、イベント・ワークショップの開催を積極的に支援したことにより、前年度の開催件数を上回り、目標を達成できた。また、花き消費拡大を目的として市場関係者・産地が連携して行う展示会・商談会についても同様に前年度の実績を上回る回数を実施して目標を達成している。</p> <p>④施設改修については、経営状況を勘案しながら、優先順位をつけて必要な改修等を実施し、目標を達成した。</p> <p>⑤CS調査については、花き小売業者へのアンケート結果に基づき必要な改善に努めた結果、不満足度は減少し、目標を達成した。</p> <p>新型コロナなどの影響により売上高が激減したことから経営状況が厳しくなったため、今年度は単年度黒字を達成できなかった。今後の花き需要の動きを見極めながら、経費節減と併せて売上高の増加に向けた効果的な市場運営の取組みを進め、健全な財務状況への回復に努める必要がある。市場の発展のため、WEBを利用しての在宅セリや夜間セリの導入などの新しい試みをうまく機能させ、売上高の増加に結びつけていくことを求めている。</p>	<p>(評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最重点目標の「当期経常利益」については、施設利用料の引下げや花き需要の低下、新型コロナウィルス等の影響による売上高の減少により、目標が未達成となっている。また、最終損益も赤字となるなど、法人の経営環境は厳しい状況であるため、収益確保に向けて取り組んでいく必要がある。 ・「新規買受人の獲得」等の市場活性化の取組みについては目標を達成しており、一定評価できる。 <p>(指導・助言)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状の花き市場の取扱高の低迷を踏まえ、展示会・商談会の開催や新規買受人の獲得等、売上高の増加に向けた取組みに注力し、損失が見込まれる当期経常損益の状況改善に努めること。 ・引き続き経費の節減や、今後大規模投資が見込まれているセリシステムの更新を含む短期修繕計画の見直しを検討し、効率的な設備投資に取り組むこと。

9. 「令和2年度大阪府行政経営の取組み」における方向性(令和2年2月)

○民営化

- ・累積赤字解消後に府保有の株式を売却
- ・ただし、売却時期については、今後必要となる大規模修繕等を踏まえ、企業価値を見極めた上で判断する

10. 経営目標設定の考え方

ミッション

○安定的な花き流通の維持

- ・消費者に新鮮で多彩な花をより早く届けるため、質・量ともに豊富で安定的な供給体制をつくる

○自主性を高めた経営体制の構築

- ・市場法改正を踏まえ、市場活性化のための多様なサービスを効率的に提供できる体制を構築するとともに、市場運営における市場関係者との連携を強化し、経営の自主性を高める。
- ・府市と協議の下、今後必要となる大規模修繕や卸売業者との連携強化を踏まえながら、民営化を進める

■ 大阪府の施策

- ・卸売市場の計画的整備と取引の合理化・機能の高度化

基本方針

1 市場活性化への取組み

(1) 魅力ある市場としての機能拡充

- ①市場環境の整備
- ②展示会等の開催支援

(2) 消費拡大・活性化の推進

2 施設改修の取組み

- ・市場機能を維持するため、建物状況調査をもとに策定した短期修繕計画に基づき、計画的な施設改修等に取り組む

戦略目標と成果測定指標【中期経営計画上の目標値】

①収益力の向上

- ・当期経常利益
【2,260千円(R1実績)→13,000千円(R5)】

②環境に対する負荷の軽減

- ・廃棄物の再資源化率
【73%(R1実績見込)→74%(R2)】

③市場活性化の取組み

- ・消費拡大のためのイベント、ワークショップの開催、支援【20回(R1実績)→10回(R2)】
- ・市場関係者が産地等と連携して行う展示会・商談会の開催等【15回(R1実績)→12回(R2)】
- ・新規買受人の獲得【18人(R1実績)→18人(R2)】

④施設改修

- ・経営状況を勘案した施設改修の実施【127百万円(R1実績)→80百万円(R2)】

⑤CS調査

- ・花き卸売市場に対する買受人の不満足度【14%(R1実績)→13%(R2)】

11. R2年度 目標設定表

I. 最重点目標(成果測定指標)								
戦略目標	成果測定指標	単位	H30実績	R1実績	R2目標	ウエイト (R2)	中期経営計画 最終年度 目標値(R5)	
① 収益力の向上	当期経常利益	千円	(29,128)	2,260	△ 13,456	40	13,000	
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)							具体的活動事項	
最重点とする理由、 経営上の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ・当市場が我が国の中核的・二大市場の一翼として安定的な花き流通に寄与するとともに、市場運営の車の両輪である卸売業者との連携強化(取組み支援)を通じ、魅力ある市場としての機能拡充を図り、より競争力のある市場を目指す。 ・民営化を進めるため、株式の売却については、今後必要となる大規模修繕等を踏まえ、企業価値を見極めたうえで判断する。 						<ul style="list-style-type: none"> ・市場施設の設備と機能向上を図るため、優先順位を付けた投資判断を行う。収益確保のため、取扱高の増加につながる事業等を検討。 <p>【収益確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ対策のための国支援事業の活用など、収益確保に資する事業等について検討 	
最重点目標達成のための 組織の課題、改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・開場25年を超えており、短期修繕計画等を踏まえ、優先度・緊急度・財務状況等を勘案し計画的に維持管理を行っていく。 ・新型コロナによる収支への影響も勘案して経営状況を見極めながら精査し実施していく。 ・セリシステムを含む市場内システムの更新が円滑に行えるよう、関係者と調整を進めていく。 ・人件費の節減、ごみの分別排出を徹底し処理量を減らすこと等による市場内の維持管理経費の削減などにより、支出の削減を図る。 						<p>【経費削減】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人件費の節減 ・ごみの分別を徹底する等、廃棄物処理費を節減 <p>【施設整備と機能向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セリシステム等更改の検討 ・市場内施設の修繕、更新の優先度をつけて実施 	
活動方針	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナによる影響を見極めながら、取扱高の増加に資する事業等を検討。 ・市場を取り巻く厳しい環境を踏まえて、一層の経費節減を図る。 						<ul style="list-style-type: none"> ・場内環境の整備 	

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	単位	H30実績	R1実績	R2目標	ウエイト (R2)	中期経営計画 最終年度 目標値(R5)	戦略目標達成のための活動事項
③ 市場活性化の取組み	消費拡大のためのイベント、ワークショップ等の開催、支援	回	12	20	12	10	-	卸売業者に限らず他の市場関係者や、商業施設とも連携したイベントやワークショップの開催を支援する
	市場関係者が産地等と連携して行う展示会・商談会の開催等	回	(11)	15	10	5	-	リニューアルした展示コーナー等を活用して、展示会・商談会を行うことにより、買受人の購買意欲を高め、消費拡大につなげていく
	新規買受人の獲得	人	(19)	18	18	15	-	登録している買受人数が減少している中で、魅力ある市場機能の向上に努め、新規買受人を獲得する
④ 施設改修	経営状況を勘案した施設改修	百万円	-	127	80	10	-	経営状況を勘案して、減価償却費+修繕費の範囲内で計画的な施設改修と設備投資を行う ・防火シャッター更新 ・セリ室照明更新 ・1階送風機設置工事
⑤ CS調査	花き卸売市場に対する買受人の不満足度	%	17	14	13	10	-	・館内放送の改善 ・車の入場規制・誘導方法、市場内物流の改善 ・掲示機能の充実
III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)								
② 環境に対する負荷の軽減	廃棄物の再資源化率 (再資源廃棄物(トン) / 廃棄物総量(トン))	%	(72)	73	74	10	-	花き包装容器等の廃容器などを大量に排出することから、環境に対する負荷の軽減に向けて取り組んでいく。

※ ()は当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値